

大会名 Competition	ウインターカップ2018 秋田県予選会 男子決勝
No. M-2	Year Month Day Time 2018 年 10 月 28 日 14 : 00
場所 Place	横手市増田体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チームA 能代工	13 1st 14 28 2nd 6 25 3rd 20 20 4th 7 OT	チームB 秋田西
86 ○		47 ●

主審:Referee 水木 順仁
副審:1stUmpire 中道 凌平
副審:2ndUmpire 京極 幸村
テーブルオフィシャル:Table officials
横手高校男子バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	／	遠田 貴大	CAP	7	1	2	0	2	4	×	澤田 将哲	CAP	8	1	2	1	2
5	×	新田 由直		22	0	10	2	1	5	×	原田 聖輝		6	2	0	0	0
6	／	牧野 湧		6	0	3	0	0	6	×	池田 孝大		13	1	3	4	1
7	×	齋藤 創		10	0	4	2	2	7	×	和田 進之介		12	1	4	1	0
8	×	高橋 日向		10	2	2	0	1	8	×	佐藤 心星		0	0	0	0	0
9	×	佐藤 侃		11	1	4	0	3	9	／	石川 楓真		3	0	1	1	2
10		秋元 淳之介		-	-	-	-	-	10		小嶋 和樹		-	-	-	-	-
11	×	須藤 陸		6	0	3	0	2	11		八柳 航人		-	-	-	-	-
12	／	伊東 翼		11	1	4	0	0	12		高田 省吾		-	-	-	-	-
13	／	中山 玄己		3	1	0	0	0	13	／	玉造 大誠		5	1	1	0	0
14	／	佐々木 汰		0	0	0	0	0	14		菅生 千斗		-	-	-	-	-
15	／	森山 陽向		0	0	0	0	0	15		鎌田 駿一		-	-	-	-	-
16	／	上村 悠真		0	0	0	0	0	16		由利 拓未		-	-	-	-	-
17		上村 大佐		-	-	-	-	-	17		小玉 雄士		-	-	-	-	-
18		粟屋 颯太		-	-	-	-	-	18		小野 健太		-	-	-	-	-
19		小形 佳史		-	-	-	-	-	19		福田 胡羽久		-	-	-	-	-
20	／	井上 翔太		0	0	0	0	1	20		能登 陽希		-	-	-	-	-
21	／	大石 隼		0	0	0	0	0	21		三浦 裕樹		-	-	-	-	-
コーチ		杉沢 政二							コーチ		小松 和幸						
Aコーチ		小野 秀二							Aコーチ		新林 海都						
合計				86	6	32	4	12	合計				47	6	11	7	5

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* インドシュート 2P:2P* インドシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝は全県総体決勝と同じ組み合わせで、3年ぶりの優勝を目指す能代工業と、全県総体の雪辱を晴らして初優勝を目指す秋田西との対戦となった。

第1ピリオド、両チームマンツーマン・ディフェンスでスタート。能代工#8高橋が3Pで先制すると、秋田西は#7和田がオフェンスリバウンドを拾いすぐさま追いつく。秋田西は#6池田のポストを起点にオフェンスを展開し、3Pやドライブで加点すると、能代工は#9佐藤のドライブや#4遠田のミドルシュートなどで食らいつき、一進一退の攻防が続く。終盤にリズムを掴んだ秋田西がわずかにリードし、能代工13-14秋田西で第1ピリオドを終えた。

第2ピリオド開始早々、能代工は#12伊東の3Pで逆転し、#5新田の合わせや#4遠田の速攻で連続得点を決めて20-14と差を広げたところで秋田西はタイムアウトを請求。その後も能代工はオールコートディフェンスから秋田西のターンオーバーを誘い、得意の速い展開に持ち込み残り3分で34-17とリードしたところで秋田西は2回目のタイムアウト。秋田西はゾーンプレスで流れを変えたいところだが、能代工のディフェンスを崩せずタフショットが続く、41-20と能代工が21点をリードして前半を終えた。

第3ピリオド、能代工#11須藤がドライブを決めると、秋田西はすぐさま#5原田が3Pを沈め、このピリオドは両チームとも点の取り合いの展開となる。秋田西は#6池田のポストプレイ、#13玉造がドライブを決めるが、能代工も秋田西のゾーンディフェンスを落ち着いて攻略し、ハイポストを起点に加点していく。終盤に能代工が#7齋藤のドライブや#6牧野の合わせで加点し、66-40とリードを広げて第3ピリオドを終えた。

第4ピリオド、秋田西はゾーンプレスで仕掛けるが、能代工は落ち着いてボールを運び、#9佐藤のドライブや3P、#12伊東のドライブなど多彩な攻撃から連続得点を決め点差を広げる。秋田西は能代工のディフェンスを崩せず、外角のシュートもなかなか決まらない。能代工は主導権を渡さず、リバウンドやルーズボールから速い展開に持ち込み、84-47と秋田西を突き放して3年ぶり47回目の優勝を決めた。

文責 【 打矢泰之(横手高) 】